

院長あいさつ ver.1

このホームページをご覧いただきありがとうございます。

まず、私の経歴からご紹介いたします。愛媛県南宇和郡内海村、現在の愛南町の出身で、小学校、中学校、高校と学生時代は高知ですごし、少し土佐弁に染まった頃、当時四国に一つしかない徳島大学医学部に入学し、昭和53年に無事卒業いたしました。

卒業後は当時まだ肺癌が少ない頃、肺癌を専門とされた井上教授率いる徳島大学第二外科に入局し、1年間研修したのち高知赤十字病院、徳島県立中央病院、県立白鳥病院と1年ごとに転勤。再び2年間大学に戻り一般外科の臨床チーフとして研修医の指導をしたり、重症患者の呼吸管理で病院に泊まり込んだりと体力的に大変な時でした。その翌年は国立療養所徳島病院に勤務し、初めて結核病棟を担当し何十年と入院している方を診て、慢性疾患の厳しさに触れた時でもありました。翌年大学の人事で健康保険鳴門病院の健診部に異動し、初めて健診業務を経験しました。病気でない方に接すると、いかに病気になった方が弱い立場になるかを経験し、医者と患者の関係を深く考えさせられました。

井上教授のあとは厳しかった門田教授が来られ、健康保険鳴門病院に1年勤務したのち、急遽徳島大学第二外科助手として大学に呼び戻されました。それから5年間門田教授のもとで指導を受け、学位と呼吸器外科専門医の取得、助手から講師へと人生で最も多忙で、最も成長した時期でもありました。

平成3年に当時の小松島赤十字病院、現在の徳島赤十字病院に異動し、以後平成28年3月まで25年間勤務し、この4月に東徳島医療センター院長として着任いたしました。この間内視鏡手術が導入され外科手技は大きく変貌いたしました。日赤では内視鏡手術にいち早く取り組み25年間で手術数は250から1000例へ、外科医の数は6人から17人へ増加し大きく発展いたしました。

話は少しかわりますが、ホームページには懐かしい思い出がいっぱいあります。インターネットが普及し始めた頃、私が徳島赤十字病院のホームページを最初に作った思い出があります。作成ソフトは使わず他病院のホームページをテキストファイルに変換して文字だけを替えて、ああここがこう変わるのかなどと関心しながら作成していました。当時の小松島医師会にはコンピュータが大好きな先生方が多く、いろんな面で助けていただき予算の関係で、最初のHPは医師会のサーバーをお借りしてスタートしました。載せる内容も決まったものがなく色々苦勞したことを覚えています。

院長挨拶はそれ程読まれるページではありませんが、その病院の顔である院長挨拶を当時頼んだ私が書くことになるとは、頼む側より書く側の大変さを痛感しています。

さて私にとって東徳島医療センターという名前より32年間使われた板西療養所の方に馴染みがあります。また医学学生であったころ内科に入局したの兄に誘われて板西療養所の重症心身障害児施設を見学したことがあります。医学部に入りたての私にとっては初めての体験でした。その時のことは40年たった今でもはっきり記憶に残っています。

療養所といえば、今も心に残る先生がいます。その先生から医師は患者さんの病気だけを診ているのではない、その方の人生に係わっているのだと、諭された事があります。3分間診療しかできない大病院では、決して教えてもらえない医師としての心構え。

当院はこれから外来棟の建設や、電子カルテの導入、医師確保など様々な課題に取り組んでいく必要があります。今病院を運営していくのは難しい時代。病院にまで医の倫理ではなく企業の経営理論が入り込み、競争社会の中で昔のようにのんびり病気を治していけなくなりつつあります。

療養所のイメージを一新し急性期病院では出来ない、サービスや治療をこの病院で出来たらと考えております。それにはスタッフの協力はもちろん、地域で開業されている先生方や、患者さんの協力が必要です。これから職員と共に目標に向かって努力していきたいと考えております。